

第13期 松戸市緑推進委員会

第6回委員会

1. 日時 令和7年10月7日(火) 10:00~12:00
2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)
3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・平岡 考・茂木もも子・高橋盛男・藤田博美・藤田 隆・
梶谷有三・河野芳久・小松信春・滝本 実・南部 朗

○松戸市

小倉慎一 (街づくり部部長)
桜井昌彦 (街づくり部審議監)
布施 優 (公園緑地課課長)
木村高德 (公園緑地課 21世紀の森と広場管理事務所 所長)
田辺久人 (みどりと花の基金事務局長)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木原 茂(補佐)・横田雅一(補佐)・中山 茜(主査)・
岩田 昇(主査)

○傍聴 1名

事務局より本委員会の成立について、委員15名中11名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 会長選出

3 議事

- 1) 前回委員会の議事要録の確認について
- 2) 里やまボランティア入門講座について
- 3) サロン部会について
- 4) 「フォレスト・マネジメントの仕組みづくり」について
- 5) その他

4 閉会

(事務連絡等)

議事1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した第5回委員会の議事要録について異議はあるか。

会長

無ければこれをもって議事要録とする。

——承認——

議事2) 里やまボランティア入門講座について

会長

議事2 里山ボランティア入門講座について、説明をお願いします。

委員

今年も19日土曜から里やまボランティア入門講座が始まります。全5日間で2003年から始まり、23年目となります。応募者が17名です。

昨年も受講者の半数ぐらいが活動に入ってくださいました。

この講座、他市では非常に修了後の参加率が低いのですが、松戸の場合非常に高く、驚かれます。

このプログラムの中に、3日目10月25日に「見てみたい森を探そう」があります。

こちらはポスターセッションになります。資料1-2。

松戸にはボランティアが活動している森がたくさんありますので、まずそれを体感してもらおうというのが狙いの1つです。また、そこで訪ねてみたい森を見つけて実際に行ってみてもらいます。昨年実施し、出展者にも受講者にも概ね好評でしたので今年もやってみようという要領です。

去年もお願いしたのですが、里山活動は森に入ることだけではないことを知って欲しいので、去年は緑推進委員会と緑のネットワーク・まつどもポスターセッション参加しました。

今年も推進委員会に参加をお願いしたいのですが、ご了解いただけますでしょうか。

会長

補足ですが、里山ボランティア入門講座は、23年前よりこの緑推進委員会の活動から始まって、そこから継続されているものです。

今までの基本的な方向性としては、この講座では座学や実習というのが基本的なスタイルで、講座の卒業生が森で活動するというような方法でやってきました。

23 年も経つと、既存の団体の高齢化という課題や、活動できる森を探すことに限りが出てきており、卒業生は家の近くの活動に参加されたり、既存の団体に加入されています。

既存団体の高齢化の問題も含めて検討する必要がある、このように森を探そうということをやっているんじゃないかと思います。

活動も多様化しており、管理するだけではなく、他にもいろいろな楽しみがあり、それを感じてもらいたいというような趣旨かと思います。

委員

昨年のトピックスとしては 21 期で受講した修了生の 13 人がグループをつくり、そのまま紙敷みなみの森に加入しました。

会長

今年も緑推進委員会としてはこのポスターセッションに参加していただきたいと思います。

お時間ある方はぜひ会場に足をお運びいただき、様子を見ていただいたり、運営サポートも含めてよろしく願いできればと思います。

今年もこういう形で実施するということです。特に質問がないようでしたら、次に移らせていただきます。

議事 3) サロン部会について

会長

議事 3 サロン部会についてです。

サロン部会というのは、みどりの基本計画を改定する際、5 年ぐらい前に、この緑推進委員会の中で、「みどりとまちをつなぐプラットフォームづくり」をどのように進めていくか検討するために組織された部会です。

みどりの基本計画の中に、きちんと位置付けられているもので、「みどり」を 1 つの舞台にして、いろいろな人たちを繋いでいくというイメージで作られたものです。

このことについて、部会長の高橋委員、ご説明お願いいたします。

委員

活動報告は手元にありますので、ゆっくりご覧いただければと思います。その中の「里山をめぐる連携活動」をご覧ください。

今期で何を始めたかという、ここに緑のプラットフォーム、という図があります。そちらに関わり・主体があります。この主体が実際松戸の中でどういった関わり・連携をしているか、カテゴリーごとに見ていこうというものです。

初めに、松戸は里やま活動が盛んなのが特徴ですので、中心に据えて、それがどのような関わり方が実際にあるか、見るものです。

ゆがんだ赤丸の中が実際にある活動で、その外側にあるのが「こんなものがあつたらいいね。」という部会メンバーの意見を網羅したものです。

その次に、行政という視点でみどりと花の課との連携活動を図にしたものです。みどりと花の課が、外部との連携が大変多いことが分かりました。

この2つを見ていくと、最終的に共通していくのがみどりの中間組織です。

活動主体はそれぞれ活動に手一杯であり、他団体との連携もスポット的で、テーマ・課題ごとという様子です。

それを全体的・俯瞰的に見ますと、それを回していくための仕組みづくりが必要であり、それは個々の団体では限界があります。そのためこのような仲立ち役をする機関が必要になってくるということです。

これは委員会で何度も話が出てきています。

松戸で言えば、市民活動サポートセンターがありますが、そのみどり版です。

もっと規模の小さいみどり版のようなイメージです。建物を必要とせず、機能だけあればよいというものをイメージしています。

この2つの中で、サークルの中に関わっていないのが企業です。企業とみどりと直接的な関わりというのはほぼありません。

では市民団体と企業の連携というのは、どのような形があり、現状でどういうものがまちの中で動いているかまとめたのが、この資料2－4下の図です。活動の経緯としては、このような形で作業してきました。

1つ大きな問題は、やはりそれぞれの繋がり方・活動が全体的に見えるようにすること、それを活用・発信していく仕組や手立てが必要になります。

それは取り組んでいる団体や行政、関わっているそれぞれの人や組織にとっても有用です。そのあり方や機能を検討していく必要があります。そこで資料2－1下部の「みどりの中間支援組織に求められる機能」を話し合いました。

こちらは、幾らでも出てきます。この中から、重点的なものを拾い上げて詰めていくのか、それとも実施可能なものを拾い上げて何か形にしていく方法を考えるのか、これから部会の中で意見を交わしながら考えていきたいと思います。

以上、今期の部会活動中間報告となります。

あとメンバーの皆さん、補足があればお願いします。

事務局

これまでの経緯というところでお話させていただきます。

みどりのプラットフォームというところですが、令和4年に策定しました松戸市みどりの基本計画の中で、これを大きな1つの柱にしようということで、施策として盛り込んでいます。柱とするにあたって、関係団体と話をさせていただく「みどりのフォーラム」も実施しました。

その話の流れが続いておりまして、その後令和5年度と令和6年度と2回実施し、サロン部会で引き続きこのプラットフォームというところをテーマにしてお話していただいております。

みどりと花の課としましては、形にしたいと思って取り組んでおりますので、引き続きご協力の程よろしく願いいたします。

委員

今後の進め方などについても、思い悩んでいるところがあります。

委員

資料2-1の下の部分ですが、サポートセンターに求められる機能ですが、花壇グループや子育てグループとの個別の関わりはありますが、トータルとしてサポートしていただく胴元がないというところがあります。

委員

機能部分では機能が分散しているという話も出ました。

委員

一つ、プラットフォームやサポートセンターの機能面というところで、達すべき達成目的・目標をお聞かせください。

委員

市内には、みどりの活動が多種あります。みどりだけではなく、他ジャンルとのつながりも増えています。

だんだん関係図が広がり、総体が把握できない、情報の共有ができないという状況があります。

また、個々の活動は独立していて、里やま活動はネットワーク化していますが、他ではあまり広範なネットワークは見られない。包括的な組織として中間支援組織を作ろうというものです。情報共有や共有できるプロジェクトを作っていく、そういうところの作業をする。目的は、現在の活動の継続性の担保、認知を広げていくこと、参加の道筋を作っていくことです。

委員

私の分野でもあり、また日々学びながら感じるところですが、書籍やいろいろな方とお話させていただく中で感じるのは、ネットワークの根源になるのはシビックプライドの醸成というところが非常に大きいかなと思います。

市民の誇りを可視化するというところが大きな流れとして、まちづくりの中では言われているように感じます。

住民ではなく市民になっていくということです。すでにみどりとまちがかなり継続的に作られていますが、ネットワークの前段にシビックプライドがあり、そのシビックプライドはこのみどりを守りながら都市発展してきたという松戸の背景があるかなと思います。

そのみどりを守ってきた方々が、まちにみどりが残っていることによってまちにどう影響してきたかというところを、このプラットフォームの前段に据えると良いかなと思います。

自分の分野でもあるのですが、ネットワークの構築を目的としてしまうと、ネットワークがあるから何なのかというところがぼやけやすいのですが、シビックプライドを可視化することと、そこにいるプレイヤーたちが一体何をして、どう貢献しているか見えてくることが1つ重要かなと思いお聞きしていました。

このデザインやコーディネートをしていく際に、その核となるのがシビックプライドかなと思います。松戸が都市部でありながら、みどりや里やまを残してきたというところを強調すると良いかなと思います。

もう1つ、企業との連携ですが、今後支援を受けるとなりますと、ここにも書いてあるのですが、企業側には活動情報があった方がアプローチしやすいと思います。

また、SDGsや生物多様性にどう貢献できているのか表示されていると、企業側としては自分たちの企業活動や営利活動、社会活動とこの活動がフィックスし、選択のしやすさに繋がっていくと思います。

サイトでゴールのマークが貼ってあると、それが最初のアプローチになっていくと思います。シグナリングといいますか、そういった工夫も1つこのプラットフォームを展開するうえでやりやすいかなと思った次第です。

大切な取り組みだと思いながらお話をお伺いしました。

委員

とても貴重な意見をいただきました。

シビックプライドの部分をどう構成していくかというのは、やはりこれも大変な作業だと思います。

まち・もり・ひとをつなぐというワードを使ったのは、実はもりとまちが繋がっていない

からです。

そこを考える上ではシビックプライドをどう組み立てていくかが一つ重要な要素となります。

そして、里やま活動の中で面白い取り組みがありました。里山Qという団体が会社の新人研修を受け入れました。そういう繋がりも材料として入れていきたいと思います。

この作業をしている中で気づいたのですが、こういうマッピングを作って、クリックすると連携情報が出てくるとデータベースとして良いと思います。

ここに関わっている団体とこちら側の繋がり、その作業でできてくるんじゃないかと思います。大変な作業ですが、そのようなことを思いました。

会長

目的や目標の設定はとても大事だと思います。

そこを議論して、サロン部会でプラットフォームの構築を検討するという話になりました。

そこでやっていくと、技術的な方法論みたいところに議論が陥りますし、それをしないと次に行かないので、そこに目が行きがちですが、茂木委員がおっしゃったことは重要なことだと思います。

森と暮らしが繋がっていないというのが、もともとの問題意識であり、花やみどりが好きな人は、一生懸命活動を頑張っているけれども、一般市民の間に繋がっているか、或いは、次世代を担うような若い人や子供たちにどう繋がっているかという、それほど繋がっていなかったという調査結果でした。それが反省としてあります

みどりの基本計画の策定の際に、みどりの施策の認知度を調査しました。例えばオープンフォレストも10年ぐらい開催しているのですが、一般にはそれほど認知されていませんでした。

それが前提としてあって、シビックプライドに行きつきたいけれども、そこまでいけないというのが、認識になるかと思います。

だからこそ、どういうふうに広げていくかという話になります。みどりはいろいろな暮らしと相性がいいので、子育てやアートなどいろいろな分野と繋がりやすいです。

そこをきっかけにして裾野を広げていくという方法があると思います。

プラットフォームと言っているのは、裾野を広げていくという方向だと思います。

片やその山を大きくしていく、頂を高くする方法も全体像としては考えていかなければならないと思います。

プラットフォームを作り、他分野の人とお付き合いすることで裾野が広がる、イノベーション的な発想が起きて頂が高くなる等、そういったことを期待しても良いかと思います。

委員

こういう作業から始めたのは、個々に連携している関係性をもう少しはっきりさせたい、まちと繋がりたいので、ここにまちを引っ張り込む端子のようなものがないかという思惑がありました。

やってみると、委員長がおっしゃったように、接点や結合点になりそうなものは、材料としていろいろあります。

それを実際に拾い出して、包括的ではなく個々にその関係性を作っていくような活動をもってシビックプライドの方に持っていかないといけないと思います。

現実的には、みどりがあると良いとまちの人は思うけれども、なぜ私たちの生活に大事なのかなというところは考えていません。

先ほど紹介した里やま講座も、20 何年継続開催し、ボランティアを輩出していますが、知られていない、あまり目についてないという現実があります。

そこが非常に大きいです。

会長

中間支援といいますか、どのように進めていけばよいかプラットフォームとして考えると、段階があるかと思います。シビックプライドに至るまでの段階があるとするば、何もない中で、里やまは里やまでネットワークができていますが、その枠から手が伸びてない状況です。

ここ数年の目標があり、その先に将来の目標があるというような段階をもって見える化していく必要があると思います。

委員

裾野を広げるという意味で、見える化という感覚からすると、一般の方たちは、日常行為でみどりが見えるということはほとんどないと思います。

一般の人が見えるには、作業部会でもちょっと話をしたのですが、みどりの松戸シティトレイルといような、ここを歩けばこんなところがこう繋がってますよというように「みどりをつなぐコース」を紹介してはいかがでしょうか。

松戸にもパンフレットはありますが、それでは見ない人もいます。

街の中で看板として目に入るようにしてはいかがでしょうか。

例えば松戸市は街路樹が立派ですが、その看板が目に触れるように更新する等、日常に感じるものをもう少し増やしたいという気がしております。

会長

見える化の方法はいろいろあると思います。

このような話が、このプラットフォームの中で出てきて、議論して終わるのではなく、

具体のプロジェクトとして動くようになると良いと思います。
その仕組みをサポートしてくれる人が必要だという話ですね。

委員

今の話ですと、例えば里やま側からこういったコネクターを出せる。
こっち側では別のコネクターを持った人がいる。ただそれをつなげたらできるという話ですね。

会長

サロン部会でボランティアに活動しながら、中間支援どうあるべきか、或いはそれに向けて何か試行できないかということを考えていらっしゃると思うのですが、それで良いのでしょうか。
市役所はサロン部会を継続すれば、何かできると思っただけですか。

事務局

見える化したいというのは、我々も当然考えています。
今考えているのは、千葉大学と3年前から金ケ作育苗圃とその周辺の森を活用した取り組みについて共同研究をやって参りました。
金ケ作育苗圃をより広く市民の皆さんが使える場所にしたいと考えています。
その中で、育苗圃をどういう緑地にしていくかといいますと、市民の皆さんの発案やアイデアがみどりの市民サービスとして生かされるような場にしたいと思っています。
それがサロン部会で議論していただいているプラットフォームの1つの形として見えてくると思います。
それについて、何とか形にしたいと思っております。

会長

育苗圃中心に、市民活動の拠点を作るというのはみどりの基本計画の中でも、位置付けられていますし、それをきっかけに、プラットフォームを構成していきながら、広げていきたいというのが行政の基本的な考えだと思います。
今、どんな計画書を見ても最後にPDCAが掲載されています。
プランやチェックだけではなく、推進していく場所がなくてはならないということです。
松戸市緑推進委員会は、二十六、七年前に設置されましたので、かなり早い時期にできています。
4年ほど前に、江東区で緑の基本計画の改定にお手伝いさせていただき、江東区でもそのような取り組みができないかという提案があり、江東区も推進会議を実施しました。
推進会議に取り組む中で、市民や企業を含め、パートナーシップをもって活動したいと

いう話がありました。

そこで、松戸市緑推進委員会では部会活動を通じて、里やまボランティア入門講座や花壇づくりネットワークの設立、市民憲章等いろいろなことをやってきましたので、松戸市の部会活動を紹介させていただきました。

江東区ではそれを参考に、部会のようなものをスタートしました。

すると、部会が一気に加速し、独立し、江東区グリーンコミュニティ会議が立ち上がりました。

行政もそのメンバーに入り、市民活動参加者、その他一般公募、企業等合わせて30名の団体です。江東区はこちらを仕切る仕事、中間支援を業務発注しています。

議論の取りまとめにしても、中間支援や市民活動に長けた方に業務としてお願いするのも一つの手かと思います。

サロン部会についてですが、現在、手弁当で実施されています。部会の皆さんは自分の仕事を持ちながら、やっています。

それにはやはり限りがあると思いますので、きちんと手当をして、その中で安心してディスカッションできる、それをきちんと成果として取りまとめてくれる専門人材にお願いするということも、検討していただきたいと思います。

このサロン部会の議論が形になる方向を考え、予算措置してやっていただくこともご検討いただければと思います。

委員

サロン部会でこれ以上のことは手に負えません。

プランまでは行くけれども、そこから先はもうプロの世界です。

会長

こちらを要望しておきます。

サロン部会についての議論はこれで終わりにします。

議事4)「フォレスト・マネジメントの仕組みづくり」について

会長

議事4「フォレストマネジメントの仕組みづくり」について事務局から説明をお願いします。

事務局

説明の前に1点お知らせがあります。

前回の委員会では前後に配置してモニターの画面へ資料を映しましたが、今回は機器の

不調により前方のモニターのみを使用いたします。
それでは説明させていただきます。

事務局

それでは最初にスケジュールについてお知らせします。

資料 3 をご覧ください。

前回の委員会までに樹林地評価の項目や調査方法について一定の整理を終えました。現在、令和 8 年度に行う事業について検討を進めています。

資料 4 をご覧ください。

こちらでは評価の軸となっている項目の説明と配点について「松戸市みどりの基本計画」の「みどりの機能」から作成した事務局案となります。

資料 5 をご覧ください。

こちらでは樹林地に対して行政が実施している保全制度について代表的なものを表にしたものになります。

資料 6 をご覧ください。

こちらでは樹林地への補助をタイプ別にして分けたものになります。

また、表の右側には松戸市で実施している施策について記載しています。

資料 7 をご覧ください。

こちらでは樹林地への補助について具体的な案を挙げています。

資料 8 をご覧ください。

今回の委員会に先立ちまして事前に資料を送付いたしましたが、それについていただいた意見をまとめたものになります。

資料 3 に戻りまして今回から議論いただきたいものは樹林地支援のメニューとなります。

樹林地に対しての補助は様々なものが考えられると思いますので、この場で議論されたものを事務局がまとめて次の資料を作成して提示させていただくといった形ですすめていければと思います。

事務局

説明を補足させていただきます。

今回、事前に資料の一部を送付させていただいています。それに事前説明ということで、今回は参考に添付しております A4 縦刷りの 1 枚を付けささせていただいております。

これについての議論が 1 つ。

それと支援策についての議論が 1 つ。

本日はこの 2 つについて、ご審議いただくんですけれども、まず最初に資料 4 から 7 を事前に送付した際に 4 名からご意見をいただいたものが、資料 8 になります。

これについては今日初めてご覧いただく資料なので、事前説明資料と合わせて資料 8 について確認いただきたいと思います。

会長

では 5 分ぐらい時間を取ります。
配布資料について、確認ください。

———確認———

会長

本日は評価とか配点の考え方と、それに最終的にはリンクすることになる支援について、大きく 2 つに分けて議論したいと思います。
スケジュール感は資料 3 のように、今回が 6 回目の委員会となりまして年度内に 2 回と年度明けに 2 回を考えているとのこと。
まず樹林地評価とか配点の考え方についていかがでしょう。
これは評価をして、その評価に基づいて各樹林地に合う施策を講じていくものになります。
支援事業では地区指定も含めて、どこに力を入れるかというようなことを考えていきたいと思っています。

委員

調査の中で落葉樹の割合が 50%以上あると点数が加算されるようですが、例えば「市の木」とかではなく「落葉樹」と広くとって「いい樹林地」と評価できるものなのか。割合についても「50%以上」という数値に根拠のようなものがあるのか気になります。
「人通りが多い」という項目が公共性の指標となっていますが、「樹林地の中」なのか「樹林地の周囲」なのか「樹林地が見える範囲」なのか不明ですが、検討にあたっては以前議論していた公園や街路樹などについて樹林地に含めるのかというようなことも重要になる気がしますので、そのあたりは改めて検討していくのでしょうか。

事務局

まず「50%」という数値については根拠のあるものではないので、事務局の案の段階です。
「50%」というような数値にしないで「多い」とか「散見される」のような表現も検討しましたが、実際に評価をするためには明確な基準が必要だと考えました。
この「50%」であれば、航空画像から「落葉樹の比率」を数値化したものを使って定量

的な評価が可能ですが、「多い」とか「散見される」のような表現ですと、判定する人間の感性に左右される評価になってしまうことが懸念されました。

委員

なるほど。

評価表の見え方として「落葉樹が 50%以上ある」と「景観的に 3 点もらえるような優れた樹林地」となると思いますが、その 50%という数値に不安があります。

景観については重要な評価だと思うんですけど、例えば地方によっては落葉樹が極端に少ないところもあれば、ほとんど落葉樹という地域もあると思いますので、「落葉樹が少ない景観は樹林地として評価されないもの」となってしまふのは心配です。

事務局

今回の事務局案では、都市にある森として、落葉樹が多いと紅葉や落葉で四季を感じられるという部分を評価しているものになります。

会長

「評価」というものを見た人の感じ方としては、そのような印象を受ける人が多いと思いますので、一定程度の根拠っていうのがないと数値は載せにくいというのはあります。例えば資料 5 の優良緑地確保計画認定制度の制度設計をする有識者会議では、「1,000 m²や 30%」という数値の持つ意味や根拠について気を使って作りました。

それからぴったり数字で切れるのではなくて「この段階にある」とか「この段階である」という評価指標もあります。

結局、なぜ評価するかを考えると今回の場合は、地区指定とか施策として何を当て込むかということにリンクさせて、この評価を考えようっていうことですので、評価についてはある程度客観性が担保されている必要があると思います。

評価表を作ったからの作業として、きちんとトライアルをやって、「誰が見てもここは保全されるべき樹林地」が抽出されてきて、その樹林地がちゃんと上の方にランキングされているということを確認する作業があると思います。

なので、この「50%」がいいかどうかについては「50%がいい根拠」がないと設定しづらいかなという気がします。

例えば樹幹高ですと「8m以上」とした時に、何で 8 メートル以上かということ、戸建住宅の 2 階建ての屋根超えて見える、そうすると人の目に入るので、単純な緑被だけではなく「人の目に入る」という意味も持ってくると思います。

ただ数字の整理の難しいところは根拠だと思います。景観に加えて樹林地としての生態的な質の高さとか、評価については考えどころだと思います。

委員

表現としては割合ではなく林相区分で表現する手法もあると思います。
具体的には「落葉広葉樹林相に相当する」とかの表現になります。

会長

台帳作成の前提として、現地での毎木調査等は実施しないで既存のデータを解析して台帳にしようと考えています。

事務局

市街地の樹林という特有の問題もあります。
例えば対象の分母として 100 ha だとしても樹林の箇所数としては数百箇所になりますし、所有者の数となるとその数倍になることが予想されます。
毎木調査という作業も大変なのですが、その準備なども考えると樹林地全てに実施するのは現実的ではないと考えています。
全ての樹林地の全ての樹木について、樹種・樹高・枝張・幹周・生育状況などのデータを入力した台帳も理想の形ですが、そこまでのことが出来ない中で可能な評価方法を検討した結果が資料 4 の事務局案となっています。

委員

自分の育った環境からは 50% 以上の落葉樹というのに違和感があるので、今後のトライアルで検証していきたいです。

委員

松戸市内の森には針葉樹だけの場所は多くないかもしれないです。

委員

この表現だと「常緑の広葉樹は良くないもの」という印象を抱く方もいるかもしれないです。
「落葉樹は良いもので常緑樹は良くないもの」ということもないと思いますので、表現方法も考えたいです。

会長

浅間神社なんかは極相林なので得点なしとなりそうですね。

事務局

「四季を感じることができる」というような表現で考えていきます。

委員

樹林地を評価して点数が出た後ですが、具体的には補助金の額が変わるとかになるのでしょうか。

事務局

評価の活用方法は、保全の制度と樹林地を、どうマッチングしていくかというところと優先度を見える化したいというところですよ。

例えば ABC ランクに分けられたとしたら、「A は積極的に特別緑地保全地区に指定しましょう」とか、BC については、「維持管理の支援をしっかりとやりましょう」とか、そういうところの色分けに使いたいと考えています。

委員

樹林地や所有者にとって、最終的に労力だったりお金の差が出てきちゃうとすると、なるべく機械的に仕分けられるものじゃないとシステムとして運用が難しいかもしれないです。

一般の方にネコ・タヌキ・ハクビシンの判断を瞬時に行うことは難しいので、その目撃情報の確度にも影響してくる。

実際に希少種が営巣していつでも確認できる場合はいいですが、目撃情報を後日検証することは基本的にできないので、お金に直結する評価の判断が、悪い言い方をすると「言ったもん勝ち」となってしまうような主観的なものでいいのか検討の余地があると感じます。

会長

これで評価指標ができると思うかもしれませんが、例えば TSUNAG の評価の裏には、こういう場合はこう評価するというマニュアルのようなものを作成しています。そこまで作らないと運用していくことは出来ないでマニュアル作成までが基本的にはセットになります。

「生態系ピラミッド上層の生き物の目撃情報」で考えると、生態系ピラミッド上層の生き物は何とか、どんな人が何回目撃したという情報があれば良しとする。などの詳細を決めていく必要があります。

悉皆調査で全部の樹林地を歩き回って調査することは現実的に無理なので、目撃情報でそれを補う訳ですが、実際の運用には、その目撃情報の内容を精査して「こういう場合は目撃情報として扱う」みたいなことを考える必要があります。

評価指標の後ろに膨大な評価の考え方なり、こういうときは認めるというものを持ってないと、統一した評価にはならないということは、現実問題としてあります。

つまり担当者が変わると樹林地の評価も変わるようではダメということです。

それと「完璧な評価の物差は一気にできない」または「状況によって価値観が変わる」ことを踏まえて、バージョンアップや更新をするのが基本的な考え方になっています。もちろん現時点で制度の高いものを作りたいですが、今回ある程度のできたところで、評価の仕組みを動かすということが必要になってきて、それをやっていると評価システムそのものに問題が出てきますので修正していったりして完成に近づけていく作業があります。

客観的な基準というものを考えると、生物多様性や景観関係のような他の調査や点数を流用するというのは手法としてあり得ると思います。

最初に考えておきたいことの一つに、評価の更新は何年に一回やるのかということも決めておかないといけないと思います。

事務局

評価に応じて樹林地をランク分けして支援をしていくという話がありましたが、希少動物のように見る人や担当者によって変わるような評価で、税金を使う支援に直結させるのは公平性の面から難しいかもしれないと考えています。

会長

評価と施策の関係については、もう少し整理していきたいと思います。

「特別緑地保全地区の指定をできるか。」「条例による保全地区の指定をできるか。」「その条件はどうするか。」「そのための評価は公平なものか。」

そのあたりを固めておかないと施策が進めなくなってしまうかもしれません。

施策の中でも特に特別緑地保全地区は、国の方でも力を入れて数値目標まで設定しています。

そういう施策にはお金がかかってきますので、公平な基準での評価をして、それに基づいた順位付けをして、優先される対象から施策を実行していく必要があります。

サポートの内容も樹林地別で提案できるように整理をしていきたいです。

専門的な議論については学識経験者を含めた会議で絞って委員会に提示していきたいと思います。

樹林地への支援についての意見はいかがでしょうか。

委員

調査に対する支援はいいと思いました。

所有者が森のことを把握していないことも多いと思いますので、単純な樹木の調査から生き物や希少種の同定のような専門性のある調査まで、複数のラインナップがあるといいと思います。

会長

生態的な質も含めた調査ですね。

「みどり」の量と質ということが言われていて、量を確保すること、質を上げていくこと、どちらも大事なことになると思います。

質を上げていくための計画作成について補助があってもいいかもしれないです。

委員

資料 6 の中で斜線になっている部分につきまして、「人材育成」という種類があると思います。

評価がしにくいので施策実施の効果が見えにくいという側面はありますが、農業施策の例として団体組織にマネジメント研修を行うといったものがあります。

松戸市で考えるとボランティア団体へのものとなると思いますが、技術講習だけではなく、組織の体制として望ましいものを客観的な視点から考える機会について研修という形で実施して、それを補助する方法もあるかと思います。

海外の農業施策の例としては広報費に補助をするといった事例もあります。

人材関係の分野は効果が見えにくいので公費の使途として理解が得られにくいとは思いますが、ボランティア団体が継続的に活動していくための組織マネジメント支援といえますか、ガバナンスを維持するスキルについての支援というのも、今後は大事な部分ではないかと思います。

会長

大事なことですよね。

組織の持続性を考える上では、組織のマネジメントも考えていく必要があります。

広報の支援でいうとオープンフォレスト用の冊子を「森ずかん」に刷新したり、その印刷や配架をしていますので、実質的には広報の支援をしているとも言えるかもしれません。

資料 7 のようなもの考える時に、支援の主体を考えてしまうと検討の幅に制限が出たりするので、「どんな支援が必要か」を考えた上で支援の主体を考えていくといいと思います。

支援の内容によって松戸市、みどりと花の基金、里やま応援団、誰が支援するのが合理的なのかは後半に考えていきましょう。

おそらく、この部分は役所の仕組みにも関係してくると思うので、松戸市の中でも調整してもらうことになりそうです。

資料 7 は硬すぎる内容というか、役所がする範囲の支援と考えると、こんな内容になる気がします。先ほど意見のあったようなソフト面についての支援も今後を考えると必

要なので、実施主体については考えずに必要な支援を検討していきたいです。

委員

ボランティアの組織づくりの面について、市民活動サポートセンターでそんな講座があって、里やま応援団から2人参加したんですけど、そこに来ている団体と交流することによって、講座とは別の交流が始まったりして、色んな幅が広がることもあるので、実際にとてもいい支援だと思います。

会長

考えた支援が別のところでやっていることも多々あると思います。
そういったものを調べて、合うものを紹介するのも支援になると思いますので、そんなリストも充実させていきたいです。

事務局

これからの作業の中で、里やま応援団や森の所有者さん等の支援を受ける側にも、どんな支援が欲しいのかというニーズの部分の調査があるかもしれませんので、その際はご協力をお願いします。

委員

みどりの活動について、「みどり」のことだから「緑のお金」だけを使うというスケールでは間に合わないと思いますので、「町のお金」を使いたいと思っています。
みどり関係の活動へのお金を募るのに森の前に募金箱を置いていてもお金は入らないので、人やお金を集めるためには町に出て、人が集まる、お金を入れてもらえる仕掛けを考えなければいけないと思います。
そういった仕掛けや仕組みというのも支援として柔軟に考えていいと思います。

委員

先ほどのボランティア団体のマネジメントへの支援についてですが、「そんなこと言われなくても我々はもう30年間これでやってんだ」という意見が出てきそうな気がするので、「何のために必要なのか」を整理しておきたいと思います。

委員

これからもボランティアの組織が続いていくことを考えると「人材」というワードは欠かせないものだと思います。
その「人材」については若い人が参加していくことが、その組織の持続性に直結すると考えられますが、若い世代の意識として組織がバナンスがかなり重視されているという

現実があります。

「一緒に作業する人たちは、こんなコミュニケーションが求められるか」とか、「団体にはこんな規則がある」とか、そういった部分も考慮して活動への参加を検討したりします。

最近では「心理的安全性」も重要と考える人が多いように思います。

相手と意見を交わすときのコミュニケーション方法のようなものですが、「自分の意見を言うことで、どのくらい不利益を被るリスクがあるか」を考えるものとなりまして、友人の組織とかでもそういう研修が結構増えてきています。

対人関係の構築や改善していくスキルを教えてもらう研修というのもあります。

「ずっとこれでやってきた」方々の技術や感覚というものと同じように組織の体制にも目が向いてきています。

また、企業ではリーダーシップ研修というものも増えてきています。

部長職、課長職、係長職、それぞれの立場の人で集まって、それぞれの辛さを共有したり解決方法を探ったりしながら上下や横とのコミュニケーション方法を考えたりします。

「そんなもの必要ない」と考える人もいると思いますが、強制ではなく使いたい人への補助なので、「必要だ」と思う人には活用してもらえるように用意しておくのもいいと思います。

委員

持続性という意味ではやっぱり必要なことだと思います。

自分の感覚でも「俺の背中を見て覚えろよ」みたいな時代ではないと思いますので、考え方をシフトしていきたいと思います。

会長

ちょっとサンプル数が少ないデータですけど、学生が市川と松戸の里山活動に対してアンケートをして、年齢から 50 代を境に 2 群に分けて何が違うかを調べました。

サンプル数がちょっと少ないので統計的な分析はできてないですけど、結果は全然違いました。

若い人は 1 つの場所に拘らないで、「面白そうだったら隣の市に行って活動する」こともあれば「チェーンソーを使う」みたいなテーマ性を持った活動に集中することもあります。

基本的に忙しいので、定期的に日付が決まって絶対それに参加しなきゃいけないっていうよりは、柔軟に「行けるとき気軽に行ける」ような活動への参加を好む意見が結構ありました。

活動の持続性を考えたときに、若い人たちに入ってきてもらわなきゃいけないことは間

違うと思いますが、その世代は 70 歳まで当たり前に働いていく世代になってきます。

そうすると、「働き終わってリタイアしてから」とか、「子育てが終わってから」、という今までのモデルとは違ったものになる可能性が高い。

働きながら、家のことをこなしながら、自分の趣味であったり社会性を持つために、ボランティアに参加することも増えてくると思います。

委員

若い世代にとってはボランティアという言葉自体が古いのかもしれないです。

委員

評価の話に戻ります。

私は松戸市内の鳥を調査する活動をしていますが、社寺の緑地と行政の緑地を比べると、「社寺の緑地は面白くて行政の緑地はつまらない」ものとなります。

安全性などで総合的に判断されたものだと思いますが、行政の緑地では下層がスカスカで向こうが見えるような密度になっていることが多いです。

「社寺では人がいて目が届いているから茂っても問題ない」のかもしれませんが、モサモサの下草に守られる生態系もありますので、同じような面積でも性格の違う樹林地があると思います。

また、空間の特性に傾斜度という評価がありますが、これは遠方から見えていることを評価していると思いますので、もう少し整理した方がいいと感じました。

「傾斜度を評価します」としてしまうと、「平坦で中を歩ける方がいい」という意見と相性が悪い気がしますし、傾斜があっても谷地であれば見えないということもあるかと思っています。

会長

評価が感覚と離れていないかの検証は必要なプロセスだと思います。

樹林地に対して「こんな項目での評価」と「この配点での点数」が我々の感覚的なものとズレていないかを確認して修正していくトライアル検証をしていきたいと思っています。

委員

この評価は、どうしても 100 点にしないといけないものでしょうか。

事務局

基本的にこれは加点方式の表になっています。

基準点があって、規格外の項目分を減点していくような方式ではなく、評価に合致する

項目の点数を加算していくものになります。

会長

最後に私の方からテーマを提供したいと思います。

「松戸市は自然共生サイトをどうとらえるか」ということです。

松戸市の考えている「フォレスト・マネジメントの仕組み」以外にも樹林や森林を評価する制度は存在していきまして、それぞれの評価で合格点を取得して、「活動や緑地の質を維持していきます」という担保によって総合的な認証に至っているという部分について、松戸市の評価としても評価基準に入れて加味するか、別の評価なので関係ないとするか。

そんなところも考えていきたいと思います。

議事5) その他

会長

議事5 その他、何かございますか。

委員

東葛里山シンポジウムのPRをします。

委員

フェイスブックやちば里山センターのホームページを見ていただいて、10月26日の日曜日に午前中に紙敷の3つの森、紙敷石みやの森、紙敷みなみの森、野うさぎの森を見て、午後、稔台の市民センターでシンポジウムをやりまして、パネルディスカッションとその前に座談会をやります。

パネルディスカッションはタイトルが50代以下の里山デビュー。50代以下の方々が里山デビューするにはどうしたらいいかというイメージでやります。

そしたら、50代以下じゃないんですけど大丈夫ですかと問い合わせがあり、大丈夫ですといいました。皆さんに来ていただきたいと思っています。

つまり、世代交代を松戸の里やま応援団で考えていて、どうしたらいいだろうという課題のもとに、引っ張り込んでどうしたらいいかとお願いしたものでございます。

委員

イベントの名前は何かですか？

委員

10月26日で東葛里山シンポジウム。ちば里山センターが主催します。

委員

それで検索すると何かしら出てくる？

委員

申し込みをしなければいけない。

委員

そうですね。

委員

今回、事前に登壇者にヒアリングしたんですけども、みんな入り方もきっかけも背景も違うので、こんなに違うものかと思っています。面白い話を聞けました。

会長

ありがとうございました。

他にありますか。

それでは、議事を終わります。

続いて連絡事項をお願いします。

連絡事項

21世紀の森と広場管理事務所

資料は画面の方をご覧ください。

21世紀の森と広場で、10月25日土曜日から11月の9日にかけて、松戸アートピクニックを開催します。

こちらは、公園の広い自然の中のいろんなところにアートの作品が置かれて、写真でご覧いただけるように直接作品に触れるようなものもございます。

またワークショップもやってまして、髪の木プロジェクトと言って女性の方とか長い髪の方の髪の毛を木の形に細工してくれるようなワークショップとか、結構有名なアーティストの方がやってくれます。

松戸アートピクニックと検索しますと詳しいサイトが出ますので、時間空けて来ていただければと思います。

いろいろな作品がございますので、これ以外にもいろんなワークショップもしていますので、ぜひ参加していただければと思います。

もう1点ございまして、松戸モリヒロフェスタが11月8日土曜日に行います。
こちら池のほとりの方に、キッチンカーとかいろいろな各ブースが出て催し物をやって
おります。

こちらは里やま応援団の方にもご協力いただいて、緑に関するワークショップとかいろ
いろやってますので、ぜひお越しください。

今年初めての試みとして、総合医療センターの方が来て、自分の手とかの菌を顕微鏡で
見れるような催しもやっていただけるとのことなので、興味ある方は来ていただきた
いと思います。

それと高校生の科学部の方がジャコの中を顕微鏡で見て、いろいろな生物がいるそう
なので、観察してみようという面白い企画も考えていますので、ぜひお越しください。

同時開催として森のホール21で音楽フェスもやってます。

松戸市で活躍している音楽関係の方や各学校の吹奏楽部の方が森のホールで演奏され
ますので、ぜひ併せて来ていただければと思いますので、よろしくお願いします。

会長

ありがとうございました。他にありますか。

千葉大で10月25日の里やまボランティア入門講座と東葛里山シンポジウムとまるか
ぶりで学園祭もやってますので、ぜひお越しください。

他に何かありますか。

事務局

第7回緑推進委員会

日時：令和7年12月19日 10時～

場所：新館5階 市民サロン

会長

これで第6回緑推進委員会を終了します。